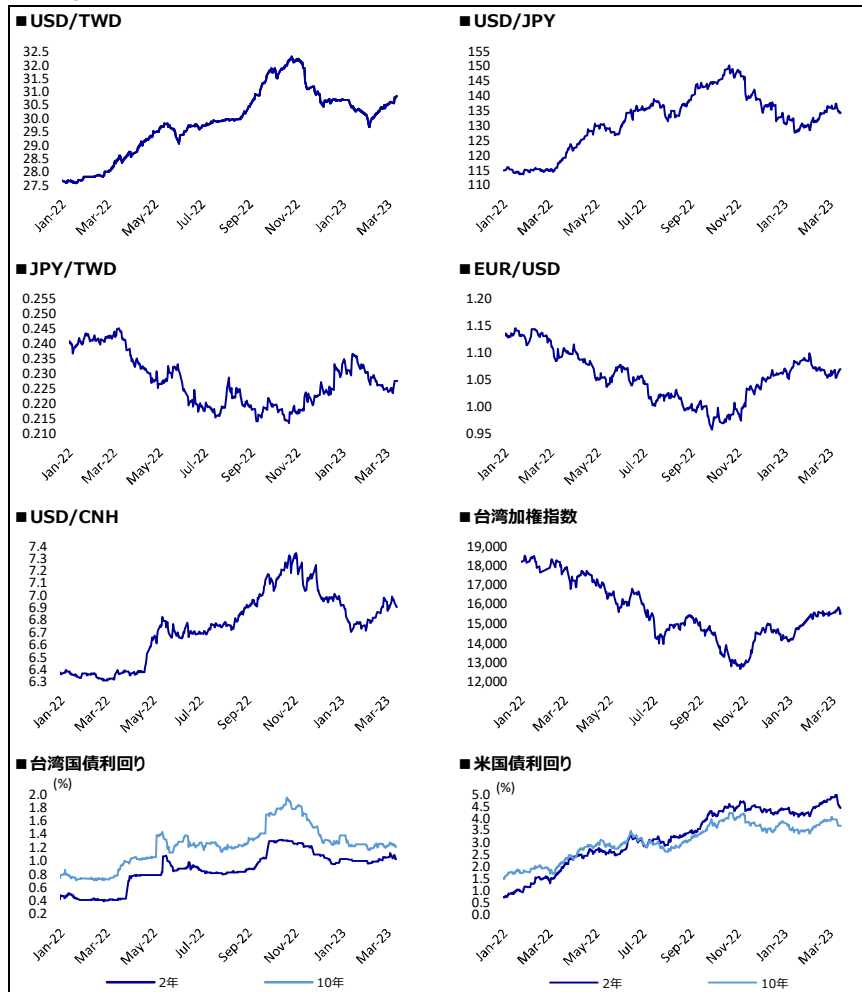


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初3/6は30.580でオープン。台湾株が上昇するとつられて台湾ドル高となり、一時30.535まで下落したものの、輸入企業のドル買いも散見され、その後は底堅く推移。3/7は30.65付近まで上昇したものの、台湾株が堅調に推移したことやパウエルFRB議長の議会証言を控え、上値は重かった。3/8はパウエルFRB議長が議会証言でタカ派な姿勢を示したことから、ドル買いが優勢となり、30.80手前まで上昇。3/9も米国の利上げ再加速への懸念からドル買いが継続し、30.8台に乗せた。3/10は米銀の経営難から米株が売られたことを受け、台湾株安台湾ドル安の流れとなり、一時30.893まで上昇するも引け前には調整のドル売りも入り、最終的に先週比0.7%ドル高台湾ドル安の30.848で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は368.4億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は年初来高値を更新するも、米銀行の破綻の影響を受け下落。週初3/6は136.00でオープン後、前週末の流れを引き継ぎ、135円台前半まで下落したものの、重要イベントを控える中、レンジでの推移が続いた。3/7はパウエルFRB議長が議会証言で「必要があれば利上げペースを加速する用意がある」と発言し、タカ派な内容に米金利が上昇して反応。ドル円もじりじりと上昇し、137円台に乗せた。3/8もドル高の流れが継続し、一時137.90まで上昇。しかし、138円を前に持ち高調整や利益確定の売りから136円台半ばまで戻された。3/9は翌日に日銀金融政策決定会合や米2月雇用統計といったイベントを控える中、ポジション調整や米銀の経営難に端を発したリスク回避の動きから上値が重かった。3/10は日銀が金融政策の維持を発表すると137円手前まで上昇。一巡すると136円台のレンジで推移したが、注目の米2月雇用統計は強弱入り交じる結果も平均時給が予想より低下したことで利上げ期待が後退し、ドル売りで反応。加えて、米銀行の金繰り破綻の報道を受けてリスクオフの流れが強まり、米株安・債券高となるとドル売りが加速し、一時134.12まで下落。一巡すると135円ちょうど付近まで戻し、最終的に先週比0.5%ドル安円高の135.10で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.600-31.020
今週は上昇を見込む。米銀行の破綻からリスクオフの流れが強まり、台湾株が軟調に推移し、台湾ドルが売られやすい状況となるであろう。ただし、米2月CPIの発表を控えており、結果次第では米国の利上げ期待が後退する可能性もあり、台湾ドルが買い戻される展開も注意したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：132.00-138.00
足許は米銀の経営破綻の影響を受け、リスクオフの流れが強まっているものの、今週は米2月CPIに注目。先週の米雇用統計はドル売りで反応したものの、雇用環境は好調であり、来週のFOMCの0.50%の利上げを完全に払拭する内容ではなかった。CPIの結果や米銀破綻の余波を見極めながら、ボラティルな環境が続くであろう。

今週の予定

3/13 (MON)	
3/14 (TUE)	米2月CPI
3/15 (WED)	米2月小売売上高、米2月PPI
3/16 (THU)	ECB理事会、米2月住宅着工・許可件数
3/17 (FRI)	米2月鉱工業生産、米3月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。